



New!

新品種のご紹介

驚異の作業性・収量性で、在圃性に優れる
春、秋まき用コマツナ

ひっ せん
カネコ交配 コマツナ **必 閃** (N-006)

カネコ種苗(株)
くにさだ育種農場
上山 直紀

はじめに

近年、コマツナは栽培が比較的容易で栽培期間が短く、様々な環境に適応できることから周年栽培され、年間7～8回作付けされています。そのような特徴から、年間雇用が可能で大規模化しやすく、出荷量、作付面積が増加傾向にあります。他の軟弱野菜と同様に収穫作業、調整作業に時間がかかるため、時間当たりにどれだけの束数、袋数を作ることができかが出荷量を左右する重要な要素となります。より収益を高めるためには収量性と収穫作業性を兼ね備えた品種が求められます。また、大規模化が進むと収穫が忙しく在圃性が必要です重要な特性になります。当社では収量性、作業性、在圃性に優れた品種を目標に開発を進め、新品种「必閃」を発表いたしました。

品種特性

- 葉柄部が太り、株張りが非常に良いため一株重が重く収量性に優れます。
- 草姿は極立性で葉柄部が折れにくく、隣の株との葉絡みが少ないため、収穫作業が容易です。
- 下葉が取りやすく、調整する葉が分

つながらため適期収穫に努めます。

【病害虫の防除】

秋、春作で特に問題になる病気はべと病や白さび病です。栽培期間の後半で発生が懸念される病気です。栽培途中では発生に気がつきにくいですが、収穫間際に急に圃場に広がることもあるため、適宜殺菌剤を利用するなど予防的防除に努めます。また、栽培期間中はコナガなどのチョウ目やアザミウマの被害で、収量や収穫物の品質低下が懸念されるため予防的防除に努めます。物理的な防除も効果的で施設栽培の場合、開口部を防虫ネットで覆うこ

かり易いため、調整作業にかかる時間が短く済みます。

- 初期生育は従来品種より良いですが、収穫時期に近づくとも伸長が穏やかになるため在圃性にも優れます。

栽培ポイント

秋、春まき栽培に適する中早生品種です。

おすすめ作型（中間地・暖地）

【春作】

○2月中旬～4月中旬播種

栽培期間は気温上昇期であるため、収穫が忙しい作型です。そのため、「必閃」の在圃性の良さを十分に活かすことができます。また、春作は低温の影響からコマツナの生育が停滞しやすい栽培時期ですが、「必閃」は初期生育が良かったため生育遅れの心配が少ない品種となります。

【秋作】

○9月下旬～10月下旬播種

昨今、9月は残暑が厳しく気温の高い日が多くなっています。そのため9月播種を想定している品種ですが、生育が進み過ぎて徒長してしまうようであれば、早まきは避けて9月下旬以降の播種にします。10月下

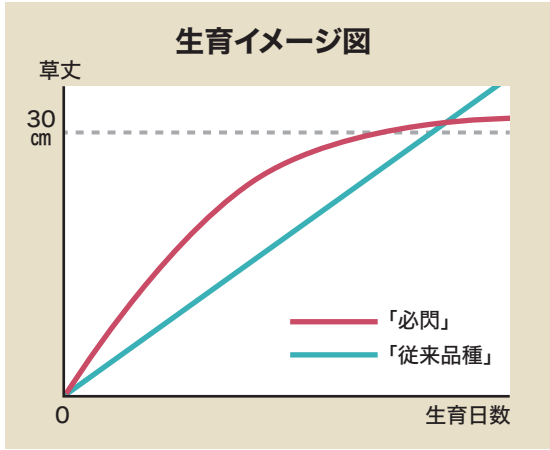


草姿極立性で、葉柄部が太く、株張りも良い

旬播種はハウス栽培、露地トンネル栽培など保温を十分に行い栽培します。特に低温期の栽培では生育が停滞し栽培期間が長くなるため播種を推奨しません。

【播種、灌水管理】

春、秋作のコマツナ栽培の栽植密度は、株間5～7cm×条間12～15cmが目安となります。コマツナは生育期間が短いので、発芽がばらつくとその後の生育に大きく影響してしまいます。発芽を均一にするため灌水設備のある場合は播種前にしっかりと灌水を行い、土壌中に水分が十分にある状態で行



播種を行います。灌水は適宜行いますが、従来品種より初期生育が良いので、初期の灌水を控えるようにします。極端な乾燥条件では生育が停滞してしまうので、中期以降は十分な灌水を行い、収穫に向けて徐々に減らしていくようにします。

【注意点】

生育初期の多灌水は、節間伸長の恐れがありますので控えてください。また、株間や条間をやや広くすることも効果的で良品生産につながります。在圃性には優れる品種ですが、在圃期間が長くなると微量要素欠乏等の生理障害や外葉の黄化の発生に

作型表

●: 播種 ■: 収穫 □: ハウス・トンネル栽培

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
播種		●		●		●		●		●		●
収穫			■		■		■		■		■	
ハウス・トンネル栽培		□		□		□		□		□		□